

1 組織体制

(1) 組織・人員

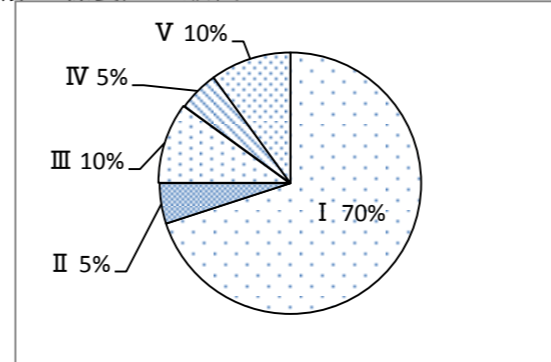
課長(事務) 合計 22名(正職員19名、臨職・嘱託3名) ※ほかに1名が育児休業中

(第一係) 計7名 区内の道路の管理に関すること		(係内業務の特色) 係員それぞれが異なる業務を担っており、業務の繁忙時期や事業進捗もそれぞれ異なる。
係長 1名(土木) 50歳代	係内事務総括	
主査 1名(土木)	市道認定・道路の占有許可などの事務、道路清掃及び除雪、放置自転車対策、街路灯整備補助金業務 など	
主任 2名(技能)		
技師 1名(技能)		
技師 1名(土木)		
臨職 1名(事務)	事務補助	
(第二係) 計5名 区内の道路の新設工事に関すること		(係内業務の特色) 担当工区が異なるものの、各係員が同種の業務を担っている。工事の施工管理のため、現場での打合せ確認作業が多い。
係長 1名(土木) 40歳代	係内事務総括	
主査 1名(土木)	道路の工事及び設計 など	
主任 2名(土木)		
技師 1名(土木)		
(第三係) 計9名 区内の道路の維持補修に関すること		(係内業務の特色) 道路の巡回及び緊急を要する応急補修の担当と計画的な道路改修工事の担当の2つのグループに分類される。要望などの問い合わせ、現場での確認作業が多い。
主幹兼係長 1名(土木) 50歳代	係内事務総括、査察指導	
主査 1名(土木)	道路改修の工事及び設計、緊急工事、道路パトロール、応急修繕 など	
主任 2名(技能)		
技師 3名(土木)		
嘱託 2名(技能)		

2 係長業務

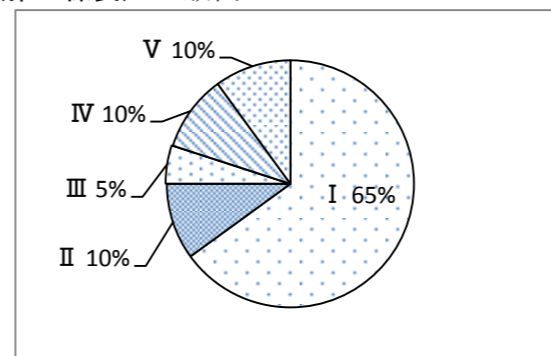
I. 係内マネジメント業務 II. 上司対応業務 III. 市民対応業務 IV. 連絡調整業務 V. 個別対応

(第一係長) 50歳代



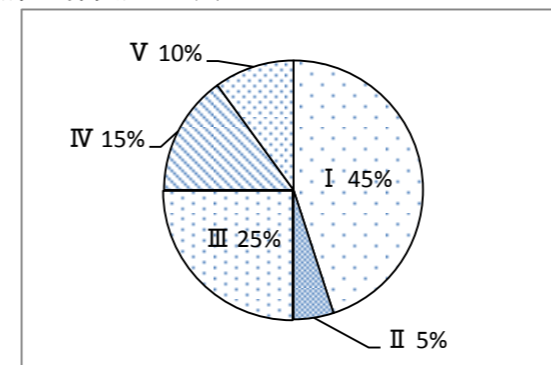
・係員の業務がバラバラであり、専門的な知識も必要。これまで関連の業務に携わったことがない係員が配属されることも多く、そのフォローや指導の業務割合が大きい。
・専門職の係員が育児休業や病欠休暇を取得した場合、その期間の代替職員が必ずしも技術系の係員ではないため、他の係員または係長の負担が大きくなる。
・係長の補佐役として主査がいると助かる部分もあるが、しっかりと仕事ができる係員が配属されるのが一番重要。

(第二係長) 40歳代



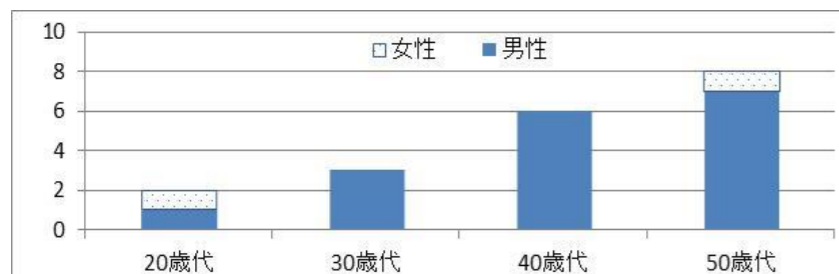
・係打合せ等を活用し、担当業務に精通していない係員への指導・育成と情報共有を行っている。業務の進捗確認の割合が大きい。
・技術系の職場では、技術の継承という面で職場の年齢構成のバランスは重要。また、係内の人事異動・事務分担の見直しについても同様に定期的なサイクルで行われることが必要。

(第三係長) 50歳代



・報告書などで業務の状況を確認し、進捗管理などの業務割合が多い。
・道路補修の要望や苦情への対応も大きな業務割合となっている。
・道路改修にかかる現場の状況確認については、主査に任せている。
・道路の巡回・応急補修の担当者は外出が多く、コミュニケーションがとりにくい点がある。
・係員が多いという認識はない。係員が少ないと災害時などの対応が難しくなることも想定される。

(2) 性別・世代別職員構成(正職員)



(3) その他

- ① 1人当たり超過勤務時間数
H27年度 16.2時間/月
H26年度 20.4時間/月
- ② 平均在課年数
3.7年(嘱託4.0)